

つかむ

調べる

まとめる

深める

～自動車の海外生産増加について、グラフから問題意識をもって調べる活動～

1. 小単元名『世界とつながる日本の工業』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.132～141／学習指導要領：内容（3）ウ）

2. 小単元の目標

工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきと、それらを通じた世界各国との結びつきについて調べ、その特色や課題を捉えることから、今後の貿易・海外生産の進め方について、考えをもたせる。

3. 小単元の評価規準

| 社会的事象への 関心・意欲・態度 | 社会的な 思考・判断・表現 | 観察・資料活用の 技能 | 社会的事象についての 知識・理解 |
|--|---|---|---|
| 日本の自動車世界各地に輸出されていることに気づき、工業生産を通じた外国とのつながりについて、興味をもって調べようとしている。 | 工業生産における世界各国との結びつきについて調べる学習問題を考え、表現している。また、日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易の関わりについて考え、表現している。 | 外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などの資料から、必要な情報を読み取っている。また、日本の工業生産を支える貿易の様子について、必要な情報を読み取り、ノートや教科書にまとめている。 | 日本の主な輸出入の品目や貿易相手先について知り、貿易や海外生産を通じた世界各国とのつながりが、工業生産を支えていることを理解している。 |

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元は、日本の工業生産について、世界とのつながりを通して考えていく。その際、地図帳や地球儀などを活用し、実際にその国や地域の位置を確かめる活動を通して具体的な理解につなげたい。また、輸出入の品目や貿易相手先などを読み取る統計資料が多く登場する単元でもある。それらの資料を根拠とし、比較・関連付け・総合して考えさせながら、世界とつながる日本の工業の様子を捉えさせたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、前小単元で学習した「自動車」の輸出や海外生産の様子を導入として展開される。そこから、「日本の工業生産」を支える貿易の現状と課題へと、児童の思考の幅を広げていく必要がある。また、豊富な統計資料があることも本小単元の特色である。それらの資料について、資料名を確認することはもちろん、数値や変化の様子なども丁寧に読み取らせ、全体で確認することで、児童の思考の材料となる情報を確実に捉えさせたい。さらに、その資料は「疑問をもたせるためのものか」「他の資料と比較させて考えさせるものなのか」「思考の確認のためのものなのか」など、資料活用のねらいをよく考えたうえで、授業を構成したい。

5. 小単元の指導（総時数5時間）

| 時数 | ねらい | ○学習活動 |
|-------------|--|---|
| ① (つかむ) | 日本の自動車の輸出の様子を調べ、工業生産における世界各国との結びつきについて関心をもち、学習問題をつくることができるようにする。 | ○日本の自動車の輸出の様子を様々な資料から読み取り、わかったことを話し合い、これから調べていく学習問題をつくる。 |
| ① (調べる) | 日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。 | ○日本の自動車の海外生産が増えていることを資料から読み取り、その理由を考え、話し合う。 |
| ① (調べる) | 日本の輸出入の状況を調べ、日本の貿易の特色を理解することができるようにする。 | ○日本の輸出入品の品目や貿易相手先について資料から読み取り、日本の貿易の特色についてわかったことを話し合う。 |
| ① (調べる) | 原材料の輸入や工業製品の輸出について調べ、日本の工業生産と貿易の関わりについて考えることができるようにする。 | ○原材料の輸入や工業製品の輸出、港別の貿易額などについてグラフや写真から読み取り、日本の貿易の特色を捉え、日本の工業生産と貿易の関わりについて考える。 |
| ① (まとめる) | 世界の貿易や日本の海外生産の現状を知り、これからの貿易と海外生産のあり方について考えることができるようにする。 | ○貿易と海外生産の現状や課題を様々な資料から読み取り、これからの貿易・海外生産のあり方について考えをまとめる。 |

6. 本時の指導（第2／5時）

(1) 本時のねらい

日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時においては、「自動車の海外生産が増えた理由とその利点」について問題意識をもって学習していくことが重要である。そのために、児童の思考を揺さぶる事実を資料から読み取らせ、疑問をもたせることで、興味・関心を高めて授業を展開していく。

まず、教科書5上 p.134 資料アを活用し、段階的に折れ線グラフを隠して提示しながら、それ以降の輸出台数、国内生産台数の変化を予想させる。既習の内容やそこまでの変化の傾向から、実際とは逆の予想をする児童が多いと考えられる。その後児童の予想とグラフから得られる事実を比較させ、児童の思考にギャップを生じさせることで、「なぜだろう?」「もっと詳しく知りたい」と意欲的に学習に取り組めるようにする。また、学級全体で予想を確認する時間を十分に確保し、思考の土台となる情報を共有できるようにする。このように、問題意識をもたせつつ授業を展開していくことで、児童がより活発に話し合い、自分の思いを表現し、主体的に授業に参加できると考えた。

(3) 本時の展開

| 時配 | ○学習活動 T:発問 C:児童の反応 | ◎資料 ◇留意点 ◆評価 |
|----|--|---|
| 10 | <p>○資料アから、輸出台数と国内生産台数の変化を予想し、本時の課題を確認する。</p> <p>T:海外にも日本の自動車が広まっていると前の時間に学習しましたね。では、資料アを見てください。1980年以降、輸出台数と、国内生産台数は、どのように変化していると思いますか。</p> <p>C:輸出も国内生産も、ともに増えていると思います。</p> <p>T:それでは、グラフの続きを確認してみましょう。</p> <p>C:新しい折れ線グラフが加わっているよ。</p> <p>C:輸出はほとんど変わらないね。</p> <p>T:さらにこの続き、1990年以降はどうなっていると思う?</p> <p>C:今度こそ、どちらとも増えているんじゃないかな?</p> <p>T:それでは、確認してみましょう。</p> <p>C:輸出も国内生産も減っている!</p> <p>C:1985年から始まっている折れ線は増え続けているよ。</p> <p>C:…何だろう?</p> <p>T:資料名から考えると、その折れ線も自動車の生産台数になにか関係がありそうですね。では、それについて今日は勉強していきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>日本の自動車は、輸出されるほかに、どのようにして広まっているのだろうか?</p> </div> | <p>◎ア 日本の自動車の生産台数と輸出台数の変化(教科書 5 上 p.134)</p>  <p>◇グラフの情報を①1980年まで②1990年まで③1993年まで④最後までに分けて提示し、そのつど続きを予想させる。そこまでのグラフの変化や推移をふまえたり、既習事項や知識を生かしたりしながら、意欲的に考えられるようにする。</p> <p>◇児童の思いを顕在化させ、疑問を共有することで、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。</p> |
| 5 | <p>○資料アが何を表しているか、考える。</p> <p>T:それでは、このグラフを最後まで見てみましょう。</p> <p>C:国内生産は減っている。輸出はあまり変化がないなあ。</p> <p>C:赤の折れ線は1700万台ぐらいまで大きく伸びている!国内生産より多くなっているよ。</p> <p>T:この折れ線は何を表しているんだろうね。</p> <p>C:輸入じゃないかな。</p> <p>C:でも、海外の車が日本でそんなに走っているかなあ?</p> <p>T:では、赤の折れ線が何を表しているのか、教科書で確認しましょう。</p> | <p>◇この段階で初めて、資料アを最後まで見せる。</p> <p>◇予想と資料から分かった事実を比較させながら、児童に考えさせる。</p> |
| 10 | <p>○海外生産について知り、どの国々で日本の自動車会社が現地生産を行っているかをグループで確認し、分か</p> | |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>ったことや考えたことを話し合う。</p> <p>T: 赤の折れ線は海外生産台数について表していたんですね。それでは、資料[イ]からどんなことがわかりますか？</p> <p>C: 日本の自動車工場は世界中にあります。</p> <p>C: 遠く離れたイギリスにも自動車工場があります。</p> <p>T: なるほど、「どこの国で」ということがわかりますね。</p> <p>C: 青色の地域では、906万台も生産している事がわかります。</p> <p>T: その地域で「どれくらいの量」を生産しているか、ということもわかりますね。他に考えたことや疑問に思ったことはありますか？</p> <p>C: どうして、日本から輸出するだけでは、だめなのかな？</p> | <p>◎[イ]世界に広がる日本の自動車工場と、現地での生産台数(同 p.135)</p>  <p>◇グループごとに地球儀を使い、資料[イ]と対応させながら話し合う活動を通して、多くの国々とのつながりを理解できるようにする。</p> <p>◇課題にある「どのようにして」という言葉を、より具体化して考えられるようにする。</p> |
| 15 | <p>○海外生産増加の理由やその利点について考え、確認する。</p> <p>T: どうして、海外生産台数が増えているのかな？</p> <p>C: 海外のほうが安く生産できるんじゃないかな？</p> <p>C: 日本から遠く離れた国だと、輸出をするのに費用がかかり過ぎるんじゃないかな？</p> <p>T: では、教科書の本文から、海外生産台数が増えた理由や、そのよさについて確認しましょう。</p> <p>C: 生産や輸送にかかる費用を抑えることができます。</p> <p>C: 関税という税金がかからないから、と書いてあります。</p> <p>C: 関税がかからないので、自動車を安く買えます。</p> <p>C: [ウ]の資料にもあるけど、現地の人が働いているので、自動車づくりを学ぶことができると思います。</p> <p>T: そうですね。最後に「海外の工場で働く青山さんの話」を読んで確認しましょう。</p> | <p>◇本文に線を引かせ、問いの答え(理由)として分かったことをしっかり整理できるようにする。</p> <p>◎[ウ]インドにある日本の自動車工場の様子(同 p.135)</p> <p>◇学習問題とも絡めて、「自動車づくりを通して海外に広まっているものは何か」と児童に問いかけ、思考が深まるようにする。</p> <p>◇利点ばかりでなく、課題もあることを確認する。</p> <p>◆外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などから必要な情報を読み取っている。(技能/ノート)</p> |
| 5 | <p>○本時の課題についてまとめる。</p> <p>T: それでは、まとめていきましょう。日本の自動車は輸出のほかにどのように広まっていっていますか？</p> <p>C: 各国での海外生産を通して広まっています。</p> <p>C: その車がさらに他の国に輸出されることもあります。</p> <p>C: 自動車づくりを通して技術なども広まっています。</p> | <p>◇キーワードを板書に明示し、どの児童も本時の課題に対してのこたえをまとめられるようにする。</p> |
| <p>まとめ</p> <p>日本の自動車は、輸出されるほかに、海外生産を通して大量に世界各国へ広がっている。また、自動車の海外生産を通して技術なども広まり、その国の産業の発展を支えることもある。</p> | | |